

卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和2年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	千葉大学	整 理 番 号	1 9 0 2
プログラム名 称	アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム		
プログラム責任者	山田 賢	プログラムコーディネーター	米村 千代
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人文学の発想を基礎に据えながら、進化した Digital Humanities の方法を融合し、人間社会における未知の事態に対して指針を示し得る、刷新された人文的学知 Humanities Innovation に基づく大学院教育プログラムを五大学の人文・社会科学系大学院が連携して構築しつつある。 ・コロナ禍においても令和 2 年度の学生募集を行い、当初の学生受入予定人数 12 名のところ 10 名の学生が本プログラムに入学した。意見交換を行った学生の研究分野は文化人類学、歴史学、比較文化社会学等、様々であるようだが、プログラムでの学びをそれぞれの研究に生かすことを考えている様子であった。 ・「Digital Humanities」関連授業においては、千葉大学が中心となってオンデマンド型で連携する大学への提供を行っている。 ・コロナ禍において、現地に赴いての活動や大学間の対面での学生交流などがまだ制限されているが、合同コロキウム の代替としてのオンラインでの研究発表やディスカッション、海外連携先機関の研究者とのオンラインシンポジウムが予定されている。 ・参画する五大学を超えたプログラム担当者間の連携については、卓越大学院大学間連絡協議会が9月に1回開催された。 ・企業との連携については、コロナ禍における企業を取り巻く環境の変化等の影響もあり進んでいない。学生の企業へのキャリアパスについての議論も今後の課題となっている。 ・理数系科目の履修経験のない学生に対しても、各大学のプログラム担当者がWEBを活用して手厚い対応を行っており、学生はスムーズに受講できている。学生自身の研究テーマとテキスト・マイニング等の Digital Humanities の技法との接点を具体的に検討しており、人文・社会科学分野の研究と Digital Humanities とのギャップは感じられない。 <p style="text-align: center;">【大学院教育全体の改革への取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在籍する学生数はまだ少数であるが、人文・社会科学分野の大学院の教育研究に Digital Humanities の技法を活用する新たな学位プログラムが構築されつつある。参画する五大学では、学部段階での教育においてデータサイエンス関連の授業を開始する等されており、本事業を大学院全体の改革につなげていく具体的な取組を期待したい。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在構築しつつある Digital Humanities の技法を取り込んだプログラムの実績や工夫を人文・社会科学分野全体、さらには各大学の大学院全体に具体的に波及させることが望まれる。 ・各大学で実施している取組の大学間での波及に関しても、現在は、五大学それぞれでその展開が考えられているため、卓越大学院大学間連絡協議会の機能をさらに発展さ 			

せて、単に一つの大学からの一方向の授業配信に留まらず、人文・社会科学系大学院連携体としての発展を期待する。

- ・キャリアパスについては、人文・社会科学分野の博士人材に対する現時点での企業側の評価に単に合わせるのではなく、複数の企業と議論し、時間をかけて卓越した新たな人文・社会科学分野の博士人材像をより具体的に検討・提案するとともに、企業等と学生のマッチングイベント等を実施して、人文・社会科学分野の博士人材の企業等における活躍の場を開拓していくことを期待する。まずは、新型コロナウイルス感染拡大の影響によって遅れが生じている企業との協議を進め、どのような内容をいかに体系化し、プログラムに組み込んでいくのかについて更なる検討が必要である。
- ・コロナ禍において対面でのコミュニケーションに制限がかかっていることから、WEB会議システム等も活用し、学内のみならず大学間における学生同士の定常的なコミュニケーションの場の構築が必要である。そのようなコミュニケーションを通じた学生たちの自発的な発信が生まれれば、学生自身の卓越性の涵養や俯瞰力の育成にもつながると思われる。